自立活動学習指導案

指導者

１．日　時　　年　月　日（金）　校時（　：　～　：　）

２．場　所

３．題　材　「　ピッタリのお金を渡そう　」

４．題材について

（１）題材設定の理由

＜児童の実態＞

|  |  |
| --- | --- |
| ペルソナA | 小学部６年生　男児　自閉症・知的障害　＜日常生活面における実態＞排泄や食事、着替えなど身辺処理はほとんど自立している。言葉は、文字を提示すると５０音全て発音することができる。自分の好きな場所や物などは、一語文で口頭や文字で伝えることができる。個別の学習では、イラストと具体物のマッチングや手指の巧緻性を高める課題、分類の課題を行っている。分類では、犬、猫、おにぎり、チョコレート、飛行機、自動車などの具体的なイラストカードを動物、食べ物、乗り物といったカテゴリーで分類することができる。よって、数字を扱うために必要な抽象的な思考の基礎は育っていると考えられる。＜金銭や買い物、数に関する実態＞１～１０の数字を理解しており、数字を書いたり、数唱したりすることができる。給食で大好きな食べ物が出たとき、教員に「なな」と口と指を使って伝えることができる。この場面での「なな」とは、「からあげを７つください。」という意味で使っており、日常的に簡単な数字を扱う姿が見られる。以上のように、抽象的な思考が育ってきており、今後さらに数の学習を深めていきたいと考えている。今までの買い物学習では、買う商品をあらかじめ決めておき、本児には商品の金額よりも多い金額の入った財布を渡していた。商品を購入際には、財布に入っている全てのお金を店員に渡し、おつりを受け取るという買い物の一連の流れを経験する目的で学習を積み重ねている。本児の認知の発達を鑑み、学習を発展させちょうどの金額を支払えるようにしていきたい。 |

＜ねらい＞

　　　　児童の実態から、シートを手掛かりにして、ちょうどの金額を支払うことができるようになることをねらいとする。なお、本児の実態から、本題材では、100の位までを扱い、栗上がりの指導は行わないこととする。

＜題材の意義及び価値＞

　　日常生活の中で数字を使う場面は、物を数えるときや量を計るとき、時間を把握するときなどである。しかし、知的障害のある子は、比較的、大人が管理する場面が多く、数を数えたり、時計を読んだりする経験が不足する傾向にある。数の学習は、認知発達を高めたり、コミュニケーションを補ったりするなど、学習する必要があるが、上記のような背景から数を学ぶ必然性が低くなり習得しにくい現状がある。そこで、お金を扱うことで数学習の動機付けを行うことができると考える。

お金は、欲しい商品と交換する際に必要な道具である。そのため、自分の好きなものが手に入るという動機付けができ、意欲的に取り組むことができる。本児の場合、好きなことに対してやる気を示すとともに、覚えが早い傾向がある。そのため、好きなものを教員と一緒に選んで買い物をするという経験を基に、お金を金額通りに支払う経験を培っていきたい。

お金を扱い買い物をする学習は、数への興味を高めることができるとともに、日常生活面でも役に立つスキルであると考える。

＜指導観＞

これらの題材の特質を踏まえ、以下に示 す支援・指導でねらいを達成させる。

本時の学習では、教室で買い物の練習を行い、ねらいを達成させる。商品は、本児の興味関心を高めるため、本児の好きなお菓子のイラストを商品として準備する。

本児に活動内容の理解を促すためには、手本を示すことが効果的と考える。手本に注目させるためにイラストを見せながら行う。

　お金をちょうどの金額を出せるようにするために、専用のシートを用いる。シートには、商品を置くスペースと、金額を書くスペース、硬貨の模型を置くスペースを設けており、本児が繰り返し取り組めば自分で硬貨を出すことができるようになると考える。

本児は、数が物の個数を表すことを理解しているため、金額を書けば、その数に応じた硬貨を出すことができる。そのため、最初は課題の理解やシートの使い方教えるために、指差しでの指示や言葉かけが多くなると考えられるが、繰り返し指導する中でシートの使い方が定着し、少しずつ支援が減っていくと考える。

５．題材目標

・シートを活用し、お店で表示された金額と同じ金額の硬貨を出すことができる。

６．指導計画（総時数２5時間）

|  |  |
| --- | --- |
| 時間 | 〇目標 |
| １ | 〇教員と一緒にお金を店員に渡すことができる。 |
| ２～５ | 〇１円玉、１０円玉、１００円玉、の中から教員の提示した硬貨と同じ硬貨を渡すことができる。 |
| ６～１０ | 〇教員が提示した数字カードと硬貨に対して、同じ硬貨を、提示された数だけ渡すことができる。 |
| １１～１５ | 〇シートを活用して欲しい商品に対して示されている金額を教員に渡すことができる。 |
| １６～２０本時 | ○シートを活用して、２つの商品の合計金額を教員に渡すことができる。 |
| ２１～２５ | 〇お店にて、シートを活用してちょうどのお金を支払うことができる。 |

７．本時の学習（1６／2５時間）

（１）目標

　　　　・シートを活用しながら教員と一緒に２つの商品の合計金額を渡すことができる。

（２）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 主な学習内容 | ・指導上の支援及び留意点※評価 | 準備物 |
| １． はじまりの挨拶をする。 |  | ・お菓子カード3枚・硬貨の模型（100円玉、10円玉、1円玉）・シート・ペン |
| ２． 教員の手本を見る。 | ・教員に注目できるようにするために、本児の目を見て話したり、イラストを提示したりしながら説明をする。 |
| ３．机上にあるお菓子カードを１枚選び、シートに置く。 | ・より正確に指示を伝えるために、ジェスチャーを交えて、「好きなお菓子を１枚選んで」と伝える。また、お菓子カードを置く場所を指差しで伝える。 |
| ４．お菓子カードに書いてある金額を、シートに記入する。 | ・どの場所にどのように書くかを指差しで示す。※教員の指示を理解し、シートに金額を記入できたか。 |
| ５．シートを活用して、お菓子カードに書かれてある金額と同じ金額分の硬貨を出す。 | ・100円玉硬貨、10円玉硬貨、1円玉硬貨とそれぞれの枚数を一緒に数えるようにする。※前時の学習を思い出したり、教員に確認したりしながら、硬貨の模型をシートに置くことができたか。 |
| ６．もう１枚、お菓子カードを取ってくる。 | ・上記と同じように支援を行う。 |
| ７．活動４と同じようにシートを利用して硬貨を出す。 |  |
| ８．硬貨を数え、合計の金額をシートに記入する。 | ・混乱しないようにするために、1枚ずつ指差しをしながら数えるようにする。※硬貨を数え、それぞれの桁を正しく記入することができたか。 |
| ９． 硬貨を教員に渡し、お菓子カードを受け取る。 | ・お金を払ったからお菓子カードをもらえるということを意識できるようにするために、ちょうどの金額を支払えたことを褒めてお菓子カードを渡す。※硬貨を教員に渡すことができたか。 |
| １０．おわりの挨拶をする。 |  |

おまけ

本題材の（１／２５時間）

目標

・買いたい商品を見つけることができる。

・お金を払い、おつりを受け取ることができる。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 主な学習内容 | ・指導上の支援及び留意点※評価 | 準備物 |
| １． はじまりの挨拶をする。 |  | ・カメラ・財布・100円玉5枚・チョコレートとジュースの写真・お店の写真 |
| ２． 行く場所を知る。 | ・店舗の写真を見せ、どこに行くのかを視覚的理解できるようにし、買い物をすることを伝える。 |
| ３．チョコレートとジュースの内、買いたい物を１つ選び、お金を受け取る。 | ・チョコレートとジュースの写真を見せ、買いたいものを指差しで選ぶように促す。 |
| ４．教員と手をつないで、スーパーに行く。 |  |
| ５．買いたいものを見つけたらレジで支払う。 | ・商品を見つけたら、一緒にレジに行き、お金を支払うことを指導する。また、振り返り用に支払う場面を写真に撮っておく。※写真を手掛かりに商品を見つけることができたか。 |
| ６．おつりを受け取って、財布にしまう。 | ・おつりを受け取ったあと、財布にしまうように促す。※教員の言葉かけで、お金を渡したり、受け取ったりすることができたか。 |
| ７．学校に戻り、手を洗う。 |  |
| 8． 支払った場面の写真を見て振り返りをする。 | ・お金を支払て買った物であることが結びつくように、「お金を店員さんに渡すことができたね。では、いただきますをして食べようか。」という言葉をかける。 |
| 9．おやつを食べる。  |  |
| 10．おわりのあいさつをする。 |  |